パキスタンの気象学者２名が河川災害対策を学ぶため、当局を訪れました。

（上写真：ICHARM 提供）

パキスタン出身の JICA 研修員２名が北海道の河川災害対策を学ぶため、平成２８年１１月２９日に札幌第一合同庁舎、１２月２日に帯広開発建設部内の被災箇所の視察に訪れました。

お二人は現在国立研究開発法人土木研究所内に設置された水災害・リスクマネジメント国際センター（茨城県つくば市）で学ぶ気象学者（パキスタン気象局から派遣）です。

パキスタンでも過去にモンスーン豪雨による甚大な被災を受けており、平成２８年８月下旬に北海道で発生した連続した台風被害とその復旧対策を参考とするべく当局を訪れました。

１１月２９日札幌第一合同庁舎で当局河川部門から連続した台風による全道の被害の概要説明を受け、１２月２日に札内川、戸蔦別川合流地点の堤防決壊箇所の復旧現場を視察しました。

お二人は当時の被害状況と復旧対策について熱心に視察していました。

今夏に北海道が経験した台風被害と復旧対策が、彼らを通じて少しでもパキスタンの災害対策の改善に寄与できれば幸いです。

（札幌本局でも活発な意見交換が行われました。）